上條奨学賞　今年度は８名が選ばれる

上條奨学賞は、1953年に上條秀介学長（当時）が還暦のおりに寄附した上條奨学基金の果実によって行われ、学術上有益な研究業績を挙げた人、教育実践上の功績を挙げた人を、それぞれ表彰する。

上條奨学資金委員会は各学部からの推薦に基づき、次の８名を今年度の受賞者に決定した。

研究業績部門

医学部　外科学講座　消化器一般外科学部門　准教授　青木　武士

「腹腔鏡下系統的肝切除におけるＩＣＧ蛍光法を用いた肝区域同定法の確立」

このたびは名誉ある上條奨学賞を賜り大変光栄に存じます。またご指導いただきました村上雅彦教授をはじめ、多くのご支援を賜りました関係各位の皆さま方に心から感謝申し上げます。

近年、低侵襲手術として腹腔鏡下肝切除術が広く行われていますが、開腹手術と同様に腹腔鏡下で解剖学的肝切除を実現するためには、正確な局所解剖情報を把握することが重要であります。本研究では手術直前に体外式超音波ガイド下に目的とする門脈内へＩＣＧを投与することで、腹腔鏡下で正確な解剖学的肝切除が可能であることを報告しました。

今後はさらに低侵襲手術である腹腔鏡下手術や先進的なコンピューター外科手術のロバスト性を向上し、患者さんの心に寄り添った昭和大学発世界最先端の卓抜な低侵襲外科治療の開発、技術普及に貢献したいと思います。

薬学部　社会健康薬学講座　衛生薬学部門　講師　桑田　浩

「高度不飽和脂肪酸の貯蔵量の低下が生体へ及ぼす影響」

このたびは大変栄誉ある上條奨学賞を賜り光栄に存じます。未だ発展途上の研究成果でありますが、評価していただけたことは今後の研究の推進力となります。ご指導いただきました原俊太郎教授をはじめとする衛生薬学部門の先生や学生の皆さん、ご協力いただきました学内外の多くの方々にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

本研究では、長鎖アシルＣｏＡ合成酵素４（ＡＣＳＬ４）が高度不飽和脂肪酸の細胞内への貯蔵に関与することを見出しました。現在は、ＡＣＳＬ４の生理現象や疾患における役割について解析を進め、高度不飽和脂肪酸の利用を制限した際の生命応答への影響を明らかとすることを目指しています。

今後も昭和大学で得られた成果を世界に発信し、医療発展に少しでも貢献できるよう精進いたします。

歯学部　歯科薬理学講座　講師　茶谷　昌宏

「メダカを用いた骨代謝研究」

このたび、伝統ある上條奨学賞を賜り大変光栄に存じます。

私は、学生の頃に宇宙と生命の関わりに興味を抱き、メダカを用いた重力と骨代謝の関係解明に取り組んで参りました。

前職の東京工業大学では、国際宇宙ステーションでメダカを飼育しました。昭和大学の歯学部歯科薬理学講座に着任してからは、歯学部マルチドクターの学生とともにＪＡＸＡ（宇宙航空研究開発機構）の装置を利用して、メダカに過重力を与える実験をしました。さらに整形外科の大学院生とは、髄鞘を蛍光標識した遺伝子組換えメダカを開発し、骨折治癒の機序を解明しました。

これまでの研究が評価されたことを大変嬉しく思うとともに、今後もメダカを用いて、私のライフワークである「宇宙医学に気を引き締めてアプローチしていく所存でございます。末筆となりましたが、ご指導いただいた高見正道教授と薬理科学研究センターの皆さまに心より感謝申し上げます。

保健医療学部　看護学科　准教授　安部　聡子

「女性健診受診者の年代別朝食欠食とメタボリックシンドローム関連指標による検討」

上條奨学賞の受賞を賜りまして、周囲の方々への感謝の気持ちで一杯でございます。この名誉ある賞に恥じないように、これからも日々研鑽を重ねていきたいと存じます。

私は、予防医学の観点から栄養や食事、健康との関連を研究しております。本研究のメインテーマである「朝食欠食」は、若年世代で最も多い食習慣の問題であり、朝食を食べることは、時間栄養学という分野でも日内サイクルを整える意味で重要だと言われています。私自身は、この朝食欠食の影響を生理学的な視点からも研究しており、今後もこの分野の研究を継続していきたいと考えます。また、スポーツ運動科学研究所における栄養とスポーツに関する研究活動も推進していきたいと思います。

最後になりましたが、ご指導をいただきました下司映一保健医療学部長、日々研究活動をご支援くださっている三村洋美保健医療学研究科長に厚く御礼申し上げます。

教育業績部門

医学部　皮膚科学講座　教授　末木　博彦

「医学教育分野別評価に基づく医学教育改革の推進」

このたび栄誉ある上條奨学賞をいただき、誠に光栄に存じます。厚く御礼を申しあげます。

本学医学部は２０１８年５月に日本医学教育評価機構による分野別認証評価を受審しました。私も受審準備のため自己点検評価書の作成に参画し、本学における医学教育の現状を客観的に振り返ることができました。

受審結果を踏まえ、今年度の１年生から新しいカリキュラムがスタートしました。大きな変革は大教室での座学を効率化して短縮し、学生は情報通信技術（ＩＣＴ）を用いて能動的に勉強する事が求められます。ＣＯＶＩＤ−19の拡大は図らずも新カリキュラムには追い風になっております。

１年生が６年後にどのような学修成果が得られ、そしてどのような医師が誕生するのか今から楽しみにしております。

薬学部　基礎薬学講座　生物化学部門　准教授　小濵　孝士

「薬剤師基礎能力の主体的な修得を目指した学修体系の構築」

このたびは栄誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。今回の受賞は、これまでご指導いただきました倉田なおみ客員教授をはじめ、ご理解とご協力をいただきました多くの先生方のお力添えによるものであり、心より御礼申し上げます。

薬学部の３年次と４年次は、薬剤師業務の基盤となる知識と技術を修得し、共用試験（ＯＳＣＥ）で技能・態度の評価を受ける重要な時期となります。４年次での実務実習事前学習からＯＳＣＥにかけて、学生が主体的に学修し技術を向上させるための実習・練習体系を構築してきました。多くの先生方と情報共有して連携を深め、学生個々に応じた対応を行うことの重要性を強く認識しながら取り組んでおります。

今後も先生方とともに尽力していく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

歯学部　全身管理歯科学講座　歯科麻酔科学部門　教授　飯島　毅彦

「全身との関連を理解した臨床歯科医育成に向けた歯科学修体系の構築」

５月31日、上條記念館において上條奨学賞（教育功績部門）を受賞いたしました。まさに身に余る光栄です。

昭和大学に赴任したのは約８年前ですが、その印象は何と教育に熱心な大学だろうということでした。ワークショップなどのＦＤには理事長先生はじめ学長先生らが必ず参加され講演をされています。新鮮な驚きでした。

歯学部における私の教育分野は麻酔という単なる診療科としての麻酔業務を教えるだけでなく、歯科患者の全身評価と医療上の管理方法の基本を教える科目です。ある意味では昭和大学の特徴である学部連携の分野であるかもしれません。

私には分不相応な受賞ではありますが、この賞に恥じぬように学生の教育に努力していこうと気持ちを新たにしております。

保健医療学部　保健医療学教育学　准教授　大﨑　千恵子

「臨床教員制度の基盤構築と教育プログラムの開発・導入」

このたびは栄誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄であり、心より御礼申し上げます。

看護学科臨床教員制度は全国に先駆けて２０１２年に臨床教員14名ではじまり、２０２０年４月で36名が在籍しております。私は２０２０年から責任者として、臨床教員の組織化および各々の教授能力向上にむけた教育プログラムの策定と推進に努めてまいりました。これらは私一人の力では到底成しえず、ご指導いただきました下司映一保健医療学部長をはじめ、導入に尽力された市川幾恵看護キャリア開発・研究センター長、教育者と臨床実践者という垣根をこえて互いに改革を積み重ねてきた教職員のみなさまの協力の賜物と深謝いたします。

これからも昭和大学における看護基礎教育および看護師教育の発展に向け一層精進する所存ですので、よろしくお願い申し上げます。